

会 員 各 位

平成 24 年6月吉日  
社団法人 日本品質管理学会中部支部  
支部長 山内 康仁

## 第 1 4 0 回（中部支部・第 3 1 回）シンポジウムのご案内

日本品質管理学会・中部支部では例年、産学会の関心が高いテーマを取り上げ、シンポジウムを開催しております。

本年度は、『新たな時代を見据えた新たな成長力の確保～パラダイムシフトの中、企業が継続的に成長するために大切なことは何か』というテーマで開催します。

今回のシンポジウムでは、基調講演で『企業経営の目的・使命』についてのお話をいただいた後、2社の事例講演で、『企業経営で大切にしていること』の実例をご紹介いただき、全員で、『企業が大切にしなければならないもの』について考える場にしたいと思います。

会員・会員外を問わず、お誘い合わせのうえ多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

【 テ ー マ 】 「新たな時代を見据えた新たな成長力の確保」

ーパラダイムシフトの中、企業が継続的に成長するために大切なことは何かー

【日 時】 平成24年7月11日(水) 13:00～17:00

【会 場】 〒448-0858 愛知県刈谷市若松町 2-104

刈谷市総合文化センター 1階小ホール

TEL:0566-21-7430 FAX:0566-21-7440

(JR東海道本線刈谷駅・名鉄三河線刈谷駅 南口より徒歩3分)

アクセス:<http://www.kariya.hall-info.jp/pc/access/index.html>

【プログラム】

時 間	内 容
13:00～13:05	開会挨拶 中部支部 理事
13:05～14:05	基調講演 坂本 光司 氏 [法政大学 大学院政策創造研究科 教授] [テーマ]「企業経営の目的・使命」
14:05～15:05	事例講演① 西島 篤師 氏 [西島株式会社 代表取締役社長] [テーマ]「定年のない会社のものづくり、人づくり ～一生元氣、一生現役～」
15:05～15:20	休憩
15:20～16:20	事例講演② 山田 昭男 氏 [未来工業株式会社 取締役相談役] [テーマ]「社員のやる気を引き出せ！～発想と差別化の“型破り経営”～」
16:20～16:55	パネル討論 (3名) パネラー:坂本氏、西島氏、山田氏 司会進行: 中部支部 幹事
16:55～17:00	閉会挨拶 中部支部 幹事長

【申込み締切】 6月22日(金) 到着分まで

【定員】 200名 (但し、定員になり次第締め切らせていただきます)

【参加費】 会員 ; 3,000円 準会員 ; 1,500円 会員外 ; 4,000円 学生(一般) ; 2,000円

【申込方法】 申込方法:会員の種類、会員No、氏名、勤務先、所属(役職)、連絡先住所等を明記の上、下記までお申込み下さい。折り返し、会場略図等詳細のご案内をお送りいたします。

【参加費支払】 行事開催日までに銀行振り込みでご送金下さい。

<取引銀行> 三井住友銀行 名古屋支店 普通口座No.5225620

<郵便振替> 口座No. 00830-1-108389

<口座名義> 社団法人 日本品質管理学会 中部支部

\*請求書のご必要な方は、お申込みの際にお申し付け下さい。

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目6番1号 白川ビル別館  
(財)日本規格協会 名古屋支部内  
社団法人 日本品質管理学会 中部支部 事務局  
TEL (052) 221-8318  
FAX (052) 203-4806  
E-Mail nagoya51@jsa.or.jp

きりとり線

### 第140回 日本品質管理学会シンポジウム

(平成24年7月11日:水曜日)

#### 参加申込書

会員の種類	会員No.	氏名	勤務先(または学校名)	所属(または学部・学科名)
正・準 賛・外・学				
正・準 賛・外・学				
正・準 賛・外・学				
連絡先 勤務先・自宅 (○印をつけてください)		〒 _____		電話 _____ FAX _____ E-mail _____
連絡担当者		氏名: _____	所属: _____	役職: _____
参加費		会員 3,000円 名分 円	準会員 1,500円 名分 円	
請求書 要・不要 (○印を付けて下さい)		賛助 3,000円 名分 円	学生 2,000円 名分 円	合計 _____ 円

該当する箇所に○印をご記入下さい。太枠内にハッキリと明確にご記入願います。

(正:正会員 準:準会員 賛:賛助会員 外:会員外 学:学生) 賛助会員は5名まで会員扱いになります。

社団法人 日本品質管理学会中部支部 行

## 講演要旨

坂本 光司 氏

(テーマ)「企業経営の目的・使命」

企業経営の目的・使命は、会社に関わる全ての人々の、幸福の追求・実現です。

関わる全ての人々の中で、重要な人々とは、

①社員とその家族、②社外社員とその家族、③顧客、④地域住民、そして、⑤株主 です。

この5人の中で、とりわけ大切にしなければならない人とは①～④の人々で、その順番も①～④です。その理由はE SなくしてC Sは困難だからであり、快進撃企業はブレず、この順番だったからです。

今回は、その意味と多くの事例を解説します。

西島 篤師 氏

(テーマ)「定年のない会社のものづくり、人づくり ～一生元気、一生現役～」

このグローバル経済下、伸び悩む国内市場・国内経済の苦境の中、自分達ならではの強みや競争力を武器に自信を持って闘えるかどうか。どんな時代にあっても「人」が宝だと確信している。社員は最高の宝であり強みである。当社は人の会社、ものづくりはまず人づくりからであり、人が中心、人が「性能」、「開発」、「品質」など全てを生み出す。

当社には定年制がない。代わってあるのは引退制。

140人の少数な中小企業で500人、1000人の企業にも匹敵するような人材教育をする。それは一朝一夕にはできないから、長年が必要。30年～50年の長いスパンでの教育を考えている。定年退職を強いる方がよほど非合理。

スピンドル製作では、勤続60年の職人がいる。「自社一貫生産」で蓄積された技術の伝承もできており、他の職人でも同じ品質のスピンドルを作ることができるようにしてある。60才を超えて体は衰えるが、技能・技術は、磨くことができるという考え方でありやる気があれば、積み重ねとなり、会社のウツとなる。蓄積された技術は「財産」。ベテランがいても会社を引っ張っていくのは若手。ベテランの技術を継承しながら若手が効率を追求していく組織の為には60歳で線引きをする意味がない。管理職は、後任が育てば、管理の業務を若手に譲り、高度技能者として技術を追求していく。

70歳でも80歳でも週5日8時間働けることが条件。甘えの雇用延長はしない。若手もベテランも同じ基準の元で年齢に関係なく雇用する。引退を決めるのは自ら。働きがい、やりがい、気力を失った時がその時。

リーマンショック、100年に一度の不景気と言われているが、当社にとっては、「変化の時代」であり、これは、発想の違い、解釈の仕方の違い。超円高でも、豊橋で人材を磨いて競争力を付ければ、世界から受注が取れる。

山田 昭男 氏

(テーマ)「社員のやる気を引き出せ！～発想と差別化の“型破り経営”～」

経営の基本は、社員を大事にして、やる気を引き出すこと。

従業員780名、全て正社員。また年間休日日数140日。正月休みは20日間。  
それでも電気スイッチのスイッチボックスではシェア80%を占める。電気・給排水・ガスの設備資材の製造販売会社。

社員ひとりひとりが、顧客のために工夫し、「常に考える」ことを大事にしている。  
例えば、改善提案制度では、全ての提案に報酬を出し、毎年1万件もが集まる。

また「ハウ・レン・ソウ」という一般企業での常識も未来工業では禁止。

『報告する本人が一番状況を把握しているのだから、即座に自分で判断せよ』と、現場の判断を尊重する。全国には本社が知らないうちに設立が決まった営業拠点もたくさんある。もちろん、最終的には社長の承認は必要だが、各地の社員が判断することでスピードを生む。

生産性を高めるのは管理ではなくて社員のモチベーションを高める環境を作ること。

「社員の力を100%引き出せば、成果は後からついてくる」という経営を実践する会社である。